

令和6年度使用教科用図書採択検討委員会〈特別支援教育専門部会〉議事録

日 時 令和5年(2023年)7月14日(金)15時30分～
場 所 横須賀市教育研究所 会議室

【15:30開会】

- 1 開 会
- 2 挨 拶 横須賀市教育委員会
- 3 挨 拶 採択検討委員会
特別支援教育専門部会 部会長
- 4 会議の進行について

5 調査報告

進行：部会長

(1) 養護学校 小学部・中学部

[報 告]

小学部・中学部

調査部員

本校は現在小学部25名、中学部16名、41名の肢体不自由を中心とした障害のある児童生徒が通学している。ほとんどの児童生徒が車いす等を利用して生活しているが、個々の課題は様々であり、選ぶ本も異なっている。今年度の傾向としては、触覚や聴覚、視覚など五感を使って楽しむものが多く選ばれている。例えば実際にパズルのピースを動かしながら楽しむもの、音声で読み上げてくれるもの、動いたり飛び出したりするしかけがあるもの等が選ばれている。文字や音声言語のみでイメージをすることが難しい児童生徒にとって、五感を使って学ぶことが必要であり、児童生徒の実態に寄り添ったものを選んでいく。

(2) ろう学校 小学部・中学部・高等部

[報 告]

小学部・中学部

調査部員

本校の児童生徒は少人数だが、一人ひとりの子どもの実態は異なるため、学部、教科担当、担任で話し合い、各教科書を選んでいる。普段から、担任を中心に教科担当者で「児童生徒にどのような姿になってほしいのか、そのためにはどのような学習が必要なのか」といった意見交換を行うことで、児童生徒の成長、学習状況を学部全体で共有している。次年度の教科用図書については、担任と教科担当者を中心に、教科書展示会、過去に選択された教科書、インターネット等を使用して

選択したり、教科用図書が児童生徒に合うか、どのように授業で活用していくのか、話し合いを重ねて選択したりした。また、今年度の担任だけではなく、昨年度の担任及び教科担当者の意見も参考にしながら選択をしている。例えば、次年度小学部に入学予定の児童については、小学部だけではなく、幼稚部の教員の意見も参考にし、実態を確認しながら選択した。このように、次年度の教科用図書も、一人ひとりの実態に合った教科用図書を選択できたと考えている。

(3) 特別支援学級

[報告]

小学校

調査部員

文部科学省著作本については、国語が3冊、算数が4冊、音楽が1冊、附則第9条本については、国語が8冊、算数が9冊、書写、社会、理科、音楽、図画工作、道徳がそれぞれ1冊である。附則第9条本は、「ゆっくり学ぶ子のための」という同成社のシリーズの他、こぼと出版の「ジャンプアップ」や「ステップアップ」シリーズ、日本教育研究の「ひとりだちするための算数」等への採択希望があった。また、採択希望があった本は、児童の発達段階に合わせて、スモールステップで言葉・文字・数・数字の習得がなされるように工夫がされている。また、文字も大きく、挿絵が多く、色彩豊かなものであり、生活に即した内容で構成されているため、興味を持って、楽しく学べる内容になっていた。

中学校

調査部員

国語、数学に関しては昨年に引き続き著作本の採択希望が多かった。主に知的障害部門の支援学校で使用されることを念頭に作成されている教科書のため、挿絵も多く生徒にとって学習のイメージがつきやすく、学年別ではなく段階に応じた内容のため、生徒の障害の状態に合わせて選びやすいことが、著作本が幅広く採択が希望されている理由ではないかと考える。附則第9条本においては国語、社会、数学、理科、英語、家庭での採択希望が多くあった。特に「くらしに役立つ」シリーズは多くの教科で採択希望があり、自立と社会参加を目指す特別支援学級においては、生活に落とし込みやすい学習内容として選択されているものと考え。また、「ゆっくり学ぶ子のための」シリーズもイラストなど視覚的な支援が充実していることから、複数の中学校で採択希望が出されているのではないかと考える。特別支援学級の生徒の中学卒業後の進路が多様化している。そのような状況の中、附則第9条本の採択希望は実生活との関わりを持たせたものや生徒一人ひとりの学習・生活実態に合わせたものが選ばれていると考える。

<採択上の意見交換>

(1) 養護学校(小学部・中学部)

検討委員

小学部の社会科で選ばれている「動く写真で見る野生動物の世界しかけえほんサファリ」があるが、通常の本と大分異なっているようだ。総評の中で「ページをめくると、その動物たちが生きているように動く」とあるが、どのような仕組みになっているのか、またそれを見たときの子ども

の様子が分かれば教えてほしい。

調査委員

この本は、開くと写真が上下に記載されており、本を開いたり、閉じたりすると、動物が非常に細かい動きをする。本校は実際に動物を見る経験があまり多くない児童もいる中、この本を見た児童は、目をキラキラとさせて、驚いた様子や、少し怖がる様子が見られた。動いて様子が見える本は、本校の児童生徒にとっては効果的な教科書であると考えている。

検討委員

以前には、希望は出したが絶版になってしまったということがある、という話をきいたが、今年についてはいかがか。調べてみたら絶版だったということがあったのか。

調査委員

今年度については、調べている段階では、ほとんどそのようなことはなかった。

(2) ろう学校（小学部・中学部・高等部）

検討委員

ろう学校の高等部について、今回廃版なったものに変えて「新編古典B」という本を選んでいるが、総合高校も同じものを使用している。総合高校と連携等があったのか。

調査委員

特に連携はない。

検討委員

理由を見ると、「高等部の生徒に適したもの」と書いてあるが、偶然総合高校と同じものになったのか。

調査委員

はい、同じものにするということで選んではいない。

(3) 特別支援学級（小学校・中学校）

検討委員

一般図書で「ゆっくり学ぶ子のためのシリーズ」が多いとのことだが、先程報告にもあったと思うが、改めてどのような点で選ばれているのか、伺いたい。

調査委員

小学校の場合をお伝えする。4～5冊のシリーズだが、初めは文字の一致させる内容で、かわいいイラストと大きな字が教科書を開くと出てくる。ひらがなの習得、ことばと絵の一致等、同じ1ページの中で、様々な学習ができる。幅広く使い方を工夫することができる。また、それから段階が進むと、文字数が増え、物語文が出てくるようになる。作文の学習では、短い文と動きを表すイラストがあり、まずは読む教材として使い、それを書く教材に発展させるといったように、様々な段階を児童の発達に応じて継続的に使っていくことができる。このような点が大きな利点だと考えている。

委員長

中学校はいかがか。

調査委員

イラストや図等が分かりやすく載っていることが、選ばれる大きな理由である。どうしても言葉が頭の中のイメージとして浮かべて考えることが、なかなか難しい生徒もいるので、同じページの中に文字とイラストが載っていることは、学習しやすいのであろうと考えている。

検討委員

先程、幅広い使い方という点で、個々に応じた指導に活かせる教材なのだとわかった。

調査委員

小学校の音楽で星2（おんがく☆☆）の採択希望があるが、実際にどのように活用されているのか、分かれば教えてほしい。

事務局：

事務局の方からお伝えする。昨年度は音楽の著作本の希望はなかった。今年度新たに希望があった。児童の様子を見とりをする中で、「児童の実態に合わせて」という視点から検討されて、今回新たに採択希望があったと捉えている。

6 全体を通しての意見や感想

検討委員

これだけの量を一生懸命読ませていただいた。忙しい中でこれだけのことをやっていられるのが大変だなというのが、第一印象である。特に、それぞれの校種や学級でどういう繋がりがあるかという点に注目した。一番多かったのは、算数の星本の2（さんすう☆☆）で、ろう学校、養護学校、小中学校それぞれ希望が出ている。その点で感動したことがある。個に応じたということは昔から言われているが、教科書の選定はその具現化が1番出るところである。それが、調査評価表の文章から読み取れたのがすごいと思った。先生方が、普段子どもたちといかに接しているかがわかった。例えば、ろうの選定理由では「児童の実態に合っている」という言葉が使われている。養護学校では「子どもにとって見やすくわかりやすい」、特別支援学級では児童の実態に合っていること理由が様々に書かれている。これを読むと使う場面や使う子が想像できる。中学校の特別支援学級では、先程進路の多様性についての話があったが、レベルアップを目指す生徒に適した内容であることが分かる。この1つの本（さんすう☆☆）を取ってみても、普段から個々を大切にしていることが、横須賀では行われているんだなということが分かった。

一番読んでいて感動したのが、養護学校の中学部の道徳、金の星社の本の選定理由で、「『思いやりのある子に育てたい』という親の願いに応える絵本である」といった理由が書かれていた。本当に一人一人の子を大切にしていることが分かった。

検討委員

それぞれが、子どものことを考えて選ばれた本であることがわかった。また、保護者としては、このように教科書が選ばれて子どもの手元に来ているのだということが分かり、いい機会であった。

検討委員

ろう学校の様子を見ていると聴覚障害を持った児童生徒の中でも、障害の程度がかなり異なる。きこえのよい子もいれば、きこえの状況が発話になって表れている子もいる。特に国語、言語力には個々の差があると感じるので、教材と教材をどのように使っていくかというところでは先生たちの技量の向上は今後も望まれるのではないかと感じる。そういった意味では、「色々な使い方が

できるような教科書や教材とは」、という視点も必要になってくるのではないかなと感じた。

検討委員

星本（☆本）だけではなく、一般図書も本当に広い範囲から選ばれていた。たくさんあるが、一人一人を思い描きながら選んでいくには、これだけのたくさんの検討が必要なんだと感じた。

7 答申内容の原案決定

8 閉 会

【16：05 閉会】

令和6年度使用教科用図書採択検討委員会（第2回）議事録

日 時 令和5年（2023年）7月14日（金）16時35分～

場 所 横須賀市教育研究所 第1研修室

【16：35 開会】

1 開 会

（事務局： ）

これより令和6年度使用教科用図書採択検討委員会をはじめます。この会議の議長は教科用図書採択検討委員会条例に基づき、委員長をお願いいたします。

2 資格確認

（委員長）

ではこの会の資格確認を事務局お願いいたします。

（事務局： ）

本日の委員会について第4条の規定に従い、18名中16名の出席を得ていますので本会議は成立しております。

3 答申内容の検討

（委員長）

それでは各専門部会の調査内容の報告をお願いします。なお、本日審議する答申の内容については、小学校、高等学校、特別支援学校の順で審議することといたします。

（1）小学校

（委員長）

まずは、小学校部会の私からお伝えします。

本日の小学校専門部会で調査報告を基に審議いたしました。審議の結果を報告します。

小学校は11教科13種目の54種の教科書のうち、調査部会と事務部会の調査報告で違う候補本があがっていた教科・種目が「国語」、「国語（書写）」、「算数」、「生活」、「家庭」、「体育（保健）」、「外国語（英語）」、「道徳」の7教科、8種目ありました。そのうち1種目は選ばれた発行者が異なるもの、2種目は選ばれた発行者が1者異なるもの、3種目については調査部会が選んだもの以外にもう1者候補本があがっているものでした。

慎重に検討した結果、

国語「光村図書出版」、国語（書写）「光村図書出版」、社会「教育出版」、社会（地図）「帝国書院」、算数「東京書籍」「教育出版」、理科「東京書籍」、生活「東京書籍」、音楽「教育芸術社」、図画工作「日本文教出版」、

の特別支援学級があります。これらにつきましては、児童・生徒の実態に応じて教科書を選んでいきます。対象となる本は「検定本」、文部科学省で定めております「著作本」、学校教育法附則第9条で規定されている「一般図書」の三種類で、この中から採択することができます。

内容についてですが、

ろう学校（高等部）用検定本	64冊
ろう学校用著作本	18冊
養護学校用著作本	3冊
小学校特別支援学級用著作本	8冊
中学校特別支援学級用著作本	9冊
ろう学校用附則9条本	17冊
養護学校用附則9条本	110冊
小学校特別支援学級用附則9条本	23冊
中学校特別支援学級用附則9条本	31冊

検定本については、小学校・中学校で採択されたものを使用いたします。以上報告致します。

（委員長）

この調査結果について何かご意見がありましたらお願いいたします。

〔なし〕

（委員長）

それでは、全体を通しまして、ご意見あるいはご感想を含めていかがでしょうか。小学校部会の委員いかがでしょうか。

（委員）

小学校の教科書について、先生方から一通りご説明いただきながら見せていただきました。今の小学校の教科書は、イラストや写真も多く、二次元コードも掲載されていて、動画でも見ることができるということで、自分の子どもたちが過ごしていた時代からずいぶん進化しているなと思った次第でございます。

これだけ皆さんに審議された教科書でございますので、子どもたちは非常に恵まれているなと感じました。以上です。

（委員長）

ありがとうございました。高等学校部会の委員いかがでしょうか。

（委員）

久しぶりに高校の教科書を見せいただいて、正直頭が痛くなるような感じだったのですが、先生方がいろいろ考えて選んでくださっていることを、説明から感じましたし、教科書自体もいろいろな工夫がされていて、だいぶ進化があるのだなと感

じさせていただきました。子どもたちが気に入って、自主学習なども進めてもらえると大変助かるなど思っております。

(委員長)

ありがとうございました。特別支援部会の 委員いかがでしょうか。

(委員)

それぞれ工夫や配慮がなされていて、先生方が一生懸命選んでくださっていることがよくわかりました。子どもたちの手元にこのような過程を経て教科書が届くということを知り、とても勉強になりました。

(委員長)

ありがとうございました。

4 答申内容の決定

(委員長)

それでは、この調査結果を教育委員会への答申としてよろしいでしょうか。

【異議なし】

(委員長)

特に異議がないようですので、この内容を教育委員会に答申させていただきます。あとは、事務局の方でお願いいたします。

5 閉 会

(事務局：)

委員長、ありがとうございました。では最後に、教育委員会事務局を代表して、教育指導課長 よりご挨拶申し上げます。

(教育指導課長：)

熱心なご審議のうえ答申内容を決定していただきありがとうございました。

ただ今各専門部会の報告をうかがいまして、教育委員会事務局といたしましても教育委員会に自信をもって提案できるものと考えております。

従前行われていました、教師が教科書の内容を教え、子どもたちはただ静かにそれを聞いているという風な授業からの脱却が叫ばれており、現在発行されている教科書は、子どもたちが主体的に学習に取り組めるような構成になっており、工夫がされています。横須賀の子どもたちが、自らの学びを調整したり、あきらめずに粘り強く学ぼうとしたりすることを通じて、この変化が激しく、予測困難な時代においても通用する「確かな学力」を身に付けるためにはどの教科書がよいのか、という視点で、話し合いができたのではないかと考えております。

このようなことも含め、教育委員の皆様にご報告をし、事務局としてもより良い教科書採択ができるように最後まで努めてまいりますので、今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

(事務局：)

本日は長時間にわたり、ありがとうございました。なお、本日お持ちいただいた資料やお配りしたプリント類は回収させていただきます。机の上に置いてお帰りください。

また、各専門部会でも確認されたと思いますが、皆様の任期は8月31日までとなっております。情報公開がされるまでは公正確保のため秘密扱いとなりますので、くれぐれもお気を付けください。

本日はありがとうございました。解散いたします。

【16:50 終了】